

ボランティア活動における学生の意識変容について（I）

Analysis of the Change of Students' Consciousness in Volunteer Activities (I)

(2009年3月31日受理)

松井 みさ 大橋美佐子 谷本 満江
Misa Matsui Misako Ohashi Michie Tanimoto

Key words : ボランティア, 子育て支援, 地域貢献

抄 録

中国短期大学保育学科は平成19年に学科内にボランティアグループ「あつぷる」を組織化した。備前県民局との協同事業「子育てキャラバン」を中心に19年度だけで延べ12回のボランティア活動を行った。これらのボランティア活動に複数回参加した学生にアンケートをとり、ボランティア活動の回数を重ねるごとに学生の意識がどのように変容したかを調査した。その結果、回数を重ねるごとに、学生は他者との関わりを学び、また自主的な活動ができるようになったなどの意識変容がみられた。

はじめに

本学では平素より学生のボランティア活動について積極的に支援を行っている。特に近年は地域とともに生きる大学という考えのもと、地域貢献のボランティア活動を多く行って来た。

保育学科においても、保育者養成という立場から地域貢献を行うべく、平成19年、中国短期大学保育学科ボランティアグループ「あつぷる」（以下あつぷると称す）を組織化した。あつぷるの活動の特徴としては、サークル活動としてではなく、学科の直轄機関として活動することである。平成19年度、あつぷるは備前県民局との協同事業として備前地域子育て応援隊を作り子育てキャラバン事業を中心に活動を行った。本研究はこれらの事業を通して、学生の意識がどのように変容したか調査したものである。

1. 子育てキャラバンについて

1) 募 集

あつぷる結成にあたって、学生からメンバー募集を行うことにした。活動内容について学生も教員も模索している段階での募集のため、保育学科の学生が多く参加している保育系サークルのメンバーを中心に声をかけた。その結果、1年生39名、2年生21名の学生が参加を希望し、これらの学生を中心に活動を行うことにした。ただ、メンバーをこれらの学生に限定してしまうのではなく、途中からの参加希望学生についても、あつぷるメンバーとした。

2) 活動時期と会場

子育てキャラバン事業の出発式が8月末に設定されていたので、活動はそれ以降年度の終わりとなる2月までに3回の子育てキャラバン公演を行うという制約があった。保育学科の行事と学生の動きやすい時期を調整した結果、本学単独の公演としては9月に1回、翌年2月に

2回のキャラバンを行うことにした。備前県民局と打ち合わせた結果、9月11日に玉野市、2月16日に備前市、20日に岡山市でキャラバンを行うことになった。

3) 活動内容

備前県民局と協同事業としての子育てキャラバンは、1時間半の枠の中で、公演とふれあい遊びを行うという内容だった。プログラムを考えるにあたり、本学とともに備前県民局と協同事業を行う他大学との違いを出そうと考えた。その結果、3回の公演を通して着ぐるみオペレッタを行うことにした。本学保育学科は10体以上の着ぐるみを持っており、それらを活用することにより本学の特徴を出せると考えたからである。また、ドレミパイプを使用した踊りを取り入れることにより、視覚的に楽しめる舞台を作った。さらに2年生は2月に行われる保育学科発表会で全員実技発表を行うので、その演目も2月の公演内容に取り入れ、内容の充実を図ることにした。

公演名は「あっぷるのおもちゃ箱」にした。多様な内容を「おもちゃ箱」と表現することにより、幼児にも親しみやすくなり、また何が出てくるかというワクワク感も出せると考えたからである。(写真1)プログラムのレイアウトは本学の単独公演3回とも同じにして、用紙の色を変えることにより区別した。

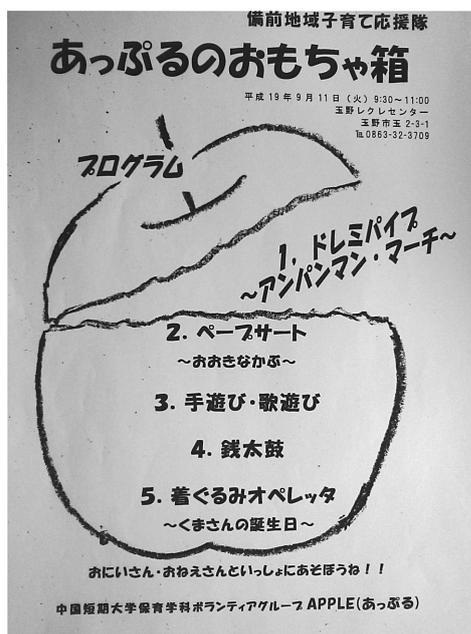


写真1

4) 各キャラバンについて

(1) 出発式(8月29日 岡山市南方地域子育て支援センター)

岡山市内の2短大と本学の参加3校がすべて参加して出発式を行った。出発式後、隣接するM保育園で第1回キャラバンを行い、参加校がそれぞれ持ち時間内で出し物を行うという内容であった。S短期大学はオペレッタ、A専門学院は踊りを行い、本学は手遊び、歌遊びを行った。3校それぞれの持ち味が出せたと思われる。また、他大学の公演を見ることにより、学生達には良い刺激になったと思われる。参加者はM保育園児、子育て支援の親子連れなど約260名だった。

(2) 第1回キャラバン(9月11日 玉野市 玉野レクレセンター)

本学単独としては初めてのキャラバンになる。本学からは1年生12名、2年生20名の学生が公演を行った。参加者は玉野市内の3保育園の園児、隣接の児童館を利用している子育て支援の親子など約250名だった。プログラムは次の通りである。

1. ドレミパイプ～アンパンマンマーチ～
2. ペープサート～大きなかぶ～
3. 手遊び・歌あそび
4. 銭太鼓
5. 着ぐるみオペレッタ～くまさんの誕生日～

ふれあいの時間は、折り紙と絵本を用意していたが、非常に広い会場だったので学生が臨機応変に対応し、子ども達と体を動かして遊んでいた。

(3) 第2回キャラバン(2月16日 備前市 夢ほっとプラザ)

本学単独の2回目のキャラバンである。前回から日にちが経っているので、反省会を行い、練習を重ねたプログラムを持ってこることができた。1年生が施設実習中なので、2年生33名のみの公演となった。参加者は子育て支援の親子約40名だった。

プログラムは次の通りである。

1. ハンドベル演奏
2. ペープサート～大きなかぶ～
3. 手遊び・歌遊び

4. 着ぐるみオペレッタ～くまさんの誕生日～

ふれあいの時間は、前回と同じ折り紙と絵本に加え、エプロンシアターとミュージックベルを用意した。会場が比較的小さかったので、小さなグループになってふれあうことができ好評だった。また全体の参加者が少なかったことで保護者の方とも多く話をすることができた。

(4) 第3回キャラバン(2月20日 岡山市 N幼保園)

最後のキャラバンである。備前と同じく2年生のみ37名の公演となった。参加者は幼保園の園児と子育て支援の親子約300名だった。

プログラムは次の通りである

1. みんなで踊ろう～ぼよん行進曲～
2. ドレミパイプ～アンパンマンマーチ～
3. ペープサート～大きなかぶ～
4. 手遊び・歌あそび
5. 着ぐるみオペレッタ～くまさんの誕生日～

今回はふれあいの時間に、別室でブラックファンタジーを取り入れた。幻想的な世界に子ども達は喜んでい様子だった。学生達も、回数を重ねて来ているので、余裕を持ってキャラバンに臨んでいた。

表 1

・子どもの理解を深めることができた

1年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
あてはまる	26	33	69
ややあてはまる	52	54	22
あまりあてはまらない	20	13	6
あてはまらない	2	0	3

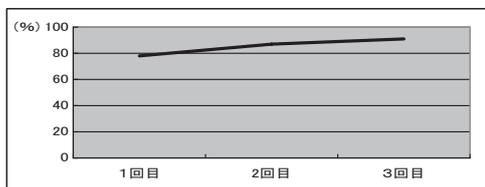
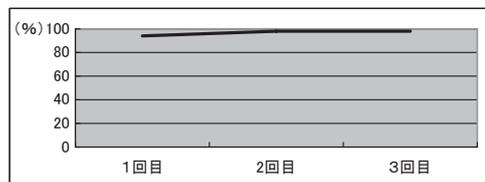


表 2

・自らの役割を自覚できた

1年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
あてはまる	74	80	85
ややあてはまる	20	18	13
あまりあてはまらない	6	2	2
あてはまらない	0	0	0



2. 学生の意識変容について

あつぷるは前述の子育てキャラバンを中心として、平成19年度にのべ12回のボランティア活動を行った。それらの活動を通して学生の意識がどのように変容したかをアンケートを通して調査した。

1) 調査の方法

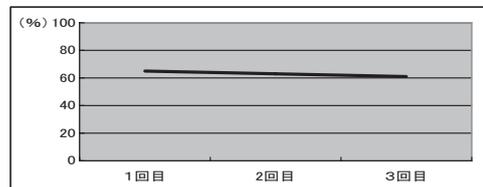
19年度を通して、あつぷるのボランティア活動に3回以上参加した学生を対象にアンケートを実施した。(1年生18名, 2年生18名) アンケートは、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階評価で答えてもらい、1回目, 2回目, 3回目以上と参加回数別で行った。また自由記述欄も設けて学生の率直な感想も書いてもらった。

2) 結果と考察

アンケートの結果を学年別で集計してまとめものが下の表である。(表の数字は%) また、グラフは「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた合計人数を%で表している。

2年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
あてはまる	26	19	22
ややあてはまる	39	44	39
あまりあてはまらない	30	30	31
あてはまらない	5	7	8



2年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
あてはまる	56	50	50
ややあてはまる	35	31	37
あまりあてはまらない	9	17	13
あてはまらない	0	2	0

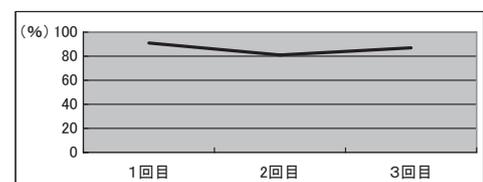
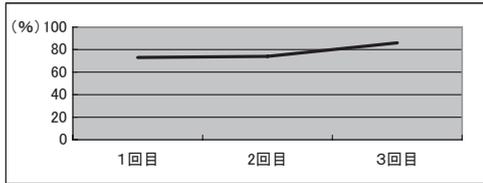


表3
・自主的に活動できた

1年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
あてはまる	17	24	30
ややあてはまる	56	50	56
あまりあてはまらない	24	22	13
あてはまらない	3	4	1



2年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
	39	35	37
	30	37	41
	24	21	13
	7	7	9

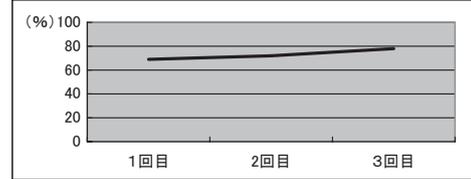
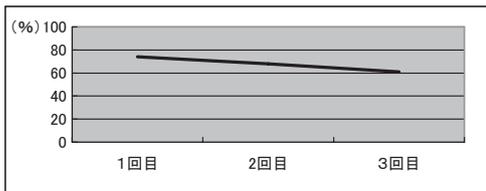


表4
・表現力（歌、踊り、造形など）が身に付いた

1年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
あてはまる	48	48	41
ややあてはまる	26	20	20
あまりあてはまらない	9	13	22
あてはまらない	17	19	17



2年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
	41	37	39
	28	28	26
	28	26	24
	3	9	11

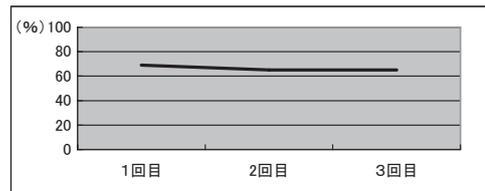
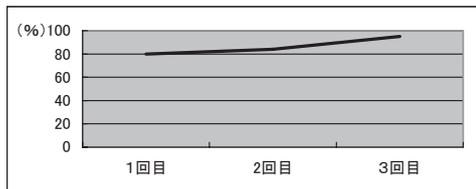


表5
・他者との関わり方を学んだ

1年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
あてはまる	43	41	73
ややあてはまる	37	43	22
あまりあてはまらない	13	15	2
あてはまらない	7	1	3



2年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
	37	31	37
	41	35	33
	19	24	22
	3	10	8

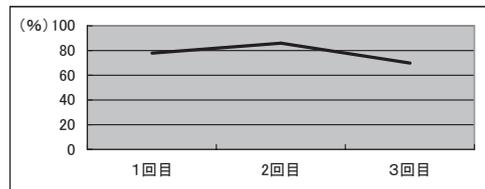
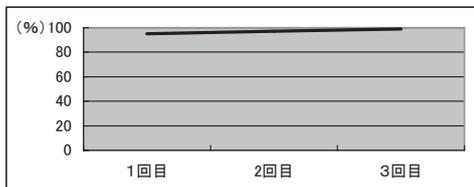


表6
・自己成長した

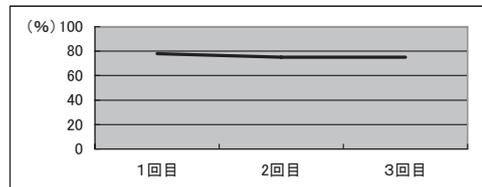
1年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
あてはまる	67	53	69
ややあてはまる	28	44	30
あまりあてはまらない	4	3	1
あてはまらない	1	0	0



2年生

	1回目(%)	2回目(%)	3回目(%)
	48	39	41
	30	36	34
	17	19	21
	5	6	4



1年生においては、表4の表現力についてのみ、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した学生が回を追うごとに74%～61%と減少している。これは、ボランティアを重ねることによって表現力が身につく、回数と自分たちの中での意識変容に関連がみられなかったと思われる。それ以外の質問については、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した学生は73%～99%を示し、回数を重ねるごとに多くなっていた。特に表3の自主的な活動や、表5の他者との関わりについては、1,2回目ではあまり変化が見られなかったが、3回目で急に多くなっている。自主的な活動に関しては、学生自らプログラム構成や運営などの計画を立て、実行したことが満足度につながったと考えられる。また他者との関わりについては、直接子どもやその保護者と接することにより、子どもたちの笑顔や親子のふれあいの様子を間近で経験したことなどが満足度になって現れたと考えられる。特に、表2の自らの役割や表6の自己成長については「あてはまる・ややあてはまる」と回答した学生が非常に高くなっている。1年生は初めてボランティアに参加する学生が多く、身だしなみや言葉遣いなどの基本的姿勢から始まり、次々に新しいことを学び自己成長したという意識が回を重ねるごとに高まっていったものと思われる。

2年生においては、表3の自主的な活動について回数を重ねるごとに「あてはまる・ややあてはまる」と答えた学生が多くなり、1年次の学習にプラスして何度もボランティア経験をしていることから、自主性が育っていると思われる。それ以外の項目については、ボランティア回数と自分の意識変容はあまり関連がみられなかった。また、すべての質問において、1年生に比し、「あてはまる・ややあてはまる」と答えた割合が低い。つまり、自己評価が低い、という結果と考えられる。しかし、自由記述欄を見ると、ボランティア活動に対し、1年生への指導方法を学んだり、自分への課題を見つけたことなど、向上的で前向きな意見や満足度を満たした意見が大部分を占めていた。

これらのことから、2年生は保育所実習や幼稚園実習を通して現場を経験している上に、就職を目前に控えており、もっと自分は勉強しなければならない、という意識が強く現れ、その結果自己評価が低くなったと考えら

れる。

3) まとめと今後の課題

ボランティア活動を継続して行うことにより、学生たち、特に1年生には、他者との関わりを学び自主的な活動ができるようになったなどの意識変容が現れた。平成19年度はあつふる結成初年度のため2年間における意識の変容は調査できていない。平成20年度もあつふるの活動は継続しているので、平成19年度1年次で参加した学生が2年次でどう意識変容するのか継続して調査することを課題とする。

参考、引用文献

- 1 松井みさ 大橋美佐子 谷本満江：ボランティア活動における学生の意識変容について、全国保育士養成協議会第47回研究大会研究発表論文集 p176-177
- 2 村田恵子 澤津まり子 立石あつ子：保育学生による地域子育て支援の取り組み、就実論叢第36号其の二 p135-152

